

定年後、地域に貢献したい意欲はあれど、金なし、コネなし、仲間なし。パソコン教室をやるうえにも、事務所もパソコンもない。ならば出向いて教えようと、13年前に5人で活動を始めた佐々木敏夫さん(79)。千葉県我孫子市を中心に会員550人のNPO法人「あびこ・シニア・ライフ・ネット」(アシラネ)に発展し、「シニアの便利屋」として大人気だ。

平均年齢は65歳で、支援する活動会員は50人。料金は30分500円。パソコン指導の他、「会員ができることは何でもやる」の方針で庭仕事、買い物付き添い、病院の送迎も。会員の裁量で、パソコンを1時間勉強した後に3時間お茶を飲みながらおしゃべりしても、料金は1000円

シニア デジタル達人伝



ネット型の便利屋



買い物支援を受けた女性(中央)に付き添う佐々木敏夫さん(右)と会員の伊藤久子さん(左) =千葉県我孫子市

買い物や送迎何でもOK

という場合もあるそうだ。

「おかげで5年ぶりにお店で買い物ができるようになった」と喜ぶ一人暮らしの女性(76)は、病気の後遺症で外出が難しかったが、アシラネ会員の伊藤久子さん(66)と、お気に入りのスーパーに来た。

理事を務める佐々木さんは、「高齢者は誰かが家に来てもらえることをとても喜んでくれます。パソコンがそのきっかけをつくってくれました」。大病をして自宅に引きこもっていた会員の大倉富男さん(79)に、佐々木さんは「あなたにパソコンを教わりたい人が待っている」と励ました。

近藤則子(老テク研究会事務局長・)

「あびこ・シニア・ライフ・ネット」のHPは「<http://ashn.jp/>」。